



プレスリリース

ハイデルベルク、2015年3月14日 ハイデルベルク国際紛争研究所 (HIK) は「2014年紛争バロメーター」を発刊、2014年に世界中であった紛争の最新のデータと分析を発表する。HIKの方式によると、2014年には、424の紛争があり、そのうちの46は、組織化された暴力の大量行使と、その重大な結果において、“甚だしく強暴”と格付けされた。この甚だしく強暴な紛争の内、21は、最高の緊張段階、戦争のレベルに達した。2013年に観察された20の戦争と比較して、2014年のそれは、著しく多くの国々に拡がりを見せた。

キエフのマイダンプロテスト以降あったウクライナの緊張状態がエスカレートし、国の東部で、新政府とさまざまな武装勢力との間に、甚だしく強暴な紛争が勃発し、2008年以来初めて、ヨーロッパも、再び、戦争の舞台となった。また、アメリカとアジアにおいても、それぞれ一つの戦争を、HIKでは記録した。大部分の戦争は、ここ数年と同じく、中近東(9)とサハラ以南のアフリカ(9)で起こっており、中近東では三つ増え、サハラ以南のアフリカでは二つ減っている。

ヨーロッパ外では、地域の甚だしく強暴な紛争の動向は、多くは国を超えて活動する過激派が決定し、彼らは、彼らの行動や目標という点で、国という枠から離れていき、

武力紛争を国境を超えて広げていった。この展開は、中東の戦闘的グループイスラム国 (IS/ISIS) と、西アフリカのボコ・ハラムの関わる紛争に最も顕著に現れた。

ボコ・ハラムグループは、攻撃を北東ナイジェリアからカメルーン、ニジェールに広げた。少なくとも死者一万人、難民百万人、と、2009年から続く紛争の中で、最も暴力的な年になった。ナイジェリア ミドル・ベルトでは、その間、農民と牧畜民の抗争が、2500人以上の死者と30万人の難民をもたらした。コンゴ民主共和国の東部では、戦闘的グループ民主同盟軍 (ADF) と、コンゴ、ウガンダ政府との紛争が、死者千人と戦闘規模が拡大した。中央アフリカ共和国では、かつてのセレカ連合と反バラカグループの戦争が臨時政府設置の後も続いた。国内の国際軍の勢力は、12000人の国連軍投入によって高められ、同時に首都バングイの安全のために、ヨーロッパ連合から1000人の兵士が送られた。ソマリアでは、中央政府が、

ソマリア駐留アフリカ連合平和維持部隊 (A M I S O M) と地元の武装勢力の助けで、イスラム主義武装勢力アル・シャバブからいくつもの都市を取り戻した。南スーダン大統領サルバ・キール派と元副大統領リーク・マシャール派の戦争は、新たに一万人の死者をもたらす一方、隣国のスーダンでは、ここ数年と同じく、三つの戦争があった。

中東では、シリアの内線が、6月にイスラム帝国を宣言した IS 組織の介入により、新しい性質を呈することとなった。もともとは反政府派の紛争であったのが、IS はシリア政府のみならず、反政府派の一部、北部クルド人地域にも戦争を仕掛けた。隣国のイラクでは、政府軍とクルディスタン地域政府の抵抗にもかかわらず、IS は国の西部、北西部の広い領域を占領した。この両国において、IS は他にもアメリカの先導による有志国連合の防戦も受けた。リビアでは政府と反政府派の暴力がエスカレートし、事実上国が二分した。ガザ地区でも「境界防衛作戦」の際、両派の闘争行為は再び戦争のレベルに達した。イエメンでは、アルフーシ武装勢力の前進と共に、紛争の緊張の度合が高まり、彼らは遂には、首都サヌアに侵攻した。アフガニスタンでは、続行中のタリバンとの戦争にもかかわらず、国際治安支援部隊 (I S A F) が 13 年の任務を終えた。隣国のパキスタンでも、パキスタン・タリバン運動が、カラチ、ペシャワールへの大攻撃を頂点とする対政府戦争を押し進めた。その間パキスタンのインドとの緊張状態は、激しい砲弾射撃でジャンムーの国境地域から 2 万人が避難を余儀なくされた際、甚だしく強暴 の域に達した。

2 月の政権崩壊で頂点を迎えたウクライナ西部の反政府紛争は、その後も多くの後続紛争を起こすこととなり、特に国の南部と東部の状況が不安定になって行った。ドンバスでの地位と資源を巡っての 政府と様々な武装勢力との戦争だけでも、少なくとも死者 4800 人、難民 120 万人を数えることとなった。

ここ数年来と変わらず、メキシコでは、麻薬組織と政府間の戦争が唯一の戦争で、それは、イデオロギー上の理由や、政治権力を巡るものではなく、単に、利益追求の理由で行われたものだ。秋には、警察が、抗議する学生達を連行し、麻薬組織に引き渡してしまったあと、政府に対する暴力的な抗議運動が行われた。メキシコ及び中央、南アメリカでは、犯罪組織の関わる暴力的な紛争が 9 記録されて、前年と同じく、メキシコとコロンビアでは、互いの間で極めて暴力的な闘争行為があった。

国家間紛争では、甚だしく強暴な紛争は、インド・パキスタン間の紛争一つであったが、H I I K では 2014 年、世界のすべての地域で国家間危機を記録し、そのうち 11 は暴力を伴うものだった。特に表立っていたのは、ウクライナ危機とクリ

ミア併合からエスカレートした、ロシアと USA、NATO、EU 間の緊張状態、そして中国とその近隣諸国、日本、インド、ベトナム、フィリピン間の領土紛争であった。国家間紛争の主な対象事物は、領土（50）、国際権力（35）の他にも、地下資源、漁獲資源、水が数えられた。

HIK は、2014 年に、他にも 166 の中程度の暴力的な国内紛争を記録し、内、38 は資源を巡って、40 は分離や自治を巡って、119 は国家権力並びに、若しくは政治システムを変えることを巡ってのものだった。最後のケースでは、多数の社会的抗議運動が、特に、バングラデシュ、ブラジル、ホンコン、パキスタン、ベネズエラで派生した。エジプト、ブルキナファソ、タイでは、軍が紛争に介入した。

ハイデルベルク国際紛争研究所（HIK）は、1991 年から、全世界の、国内及び多国間政治紛争の研究、記録、評価に専念しています。年次発行される「紛争バロメーター」からは、暴力的な、或いは暴力を伴わない紛争の最新展開状況が概観できます。最新版は、2015 年 3 月 18 日 12 時から、www.hiik.de より、無料でダウンロードできます。

Contact: HIK | Tel.: (+49) 6221 54 31 98 | Mail: info@hiik.de

**Please notice: this announcement is under a strict retention period until
Wednesday, 18th of March 2014, 12 a.m.**

Board: Christopher Becker, Sven Eckstein, Jason Franz, Johannes Nickl, Stella Wancke
Bergheimer Straße 58 | 69115 Heidelberg | T+49 (6221) 54 31 98 | F +49 (6221) 542896 | info@hiik.de | www.hiik.de
bank details: Sparkasse Heidelberg | BLZ 672 500 20 | account 240 69 50
IBAN: DE71672500200002406950 | SWIFT-BIC: SOLADES1HDB | creditor-identifier: DE79HIK00000581032